



高大連携通信

平成 30 年度 高大連携連絡協議会のご報告

リベラルアーツセンター センター長 小棹 理子



小棹センター長

平成 30 年度高大連携連絡協議会を 2019 年 3 月 5 日(火)、14:00 から本学 7 号館 3 階の 731 教室で開催しました。例年より早めに開始し、15:00 から引き続き教育研究会の場とさせていただきます。連絡協議会には、本学と教育交流協定を締結している高等学校 29 校のうち 20 校の先生方にお越しいただきました。

本学宮下次衛学長の挨拶に続き、平成 30 年度の事業報告を行い、教育交流協定書のマイナーチェンジも含めて次年度の事業計画をお諮りしてご承認いただきました。

学長は挨拶の中で、本学では一人でも多くの学生が本意にかなった進路を切り開くための教育とサポートを提供しており、高校であれ大学であれ、その学び舎に受け入れた生徒／学生の進路に責任を持って送り出すという点で目的を一にしていると述べました。

同日、学内で合同企業説明会を開催しておりましたが、1 年前に送り出された生徒さんたちが、成長して新しい進路をめざして就職活動を開始する姿をご覧いただく良い機会になったのではないのでしょうか？

さて、3 月 2 日現在、2019 年度の湘北短期大学への入学予定者は 527 人。うち連携校出身者は 188 人で、毎年 40% 前後を占めています。本学の高大連携は、高校一短大間で双方向的な情報のやり取りを行うことによって、高校教育の実態を理解し、短大教育を最適化することを目的として始まりました。平成 13 年度より神奈川県央の県立高校と協議を開始し、平成 14 年には県立高校 18 校と高大連携協定書を交わすことになりました。以来、高校生対象の授業や講座(出張授業、夏季特別講座、一日体験授業など)、高校教員との交流を目的とする教育研究会や講座、そして大学での単位を取得できる正課授業(本学への入学予定者を対象とするコミュニケーションリテラシーなど)を実施してきました。

このような教育交流をとおして本学の教育目標を理解した上で、毎年勉学意欲の高い生徒さんたちを多く送り出している連携協定校に深く御礼申し上げます。

日時：2019 年 3 月 5 日(火)14:00～14:50

会場：湘北短期大学(7 号館 3 階 731 教室)

- ご挨拶(学長)
- 事業報告・計画
 1. 平成 30 年度(2018 年度)事業報告
 - ・ 出張授業、他
 - ・ コミュニケーションリテラシー実施報告
 2. 2019 年度事業計画
 3. 質疑応答
 4. 諸連絡

※ 13:30～14:00 合同企業説明会のご見学(希望者)



高大連携連絡協議会

高大連携協定校のご紹介

愛川高校・相原高校・足柄高校・厚木北高校・厚木商業高校・厚木清南高校・厚木西高校・厚木東高校
綾瀬高校・有馬高校・伊志田高校・伊勢原高校・海老名高校・小田原東高校座間高校・寒川高校
瀬谷高校・茅ヶ崎高校・中央農業高校・二宮高校・高浜高校・秦野総合高校 平塚湘風高・平塚商業高校校
藤沢清流高校・舞岡高校・山北高校・川崎市立川崎総合科学高校・都立町田工業高校 (以上、29 校)

2019 年度 コミュニケーションリテラシー開講（入学前授業）

湘北短期大学リベラルアーツセンターでは、入学予定者を対象に、入学前授業として「コミュニケーションリテラシー」を開講しています。これは、大学と高校の違いを理解し、大学や社会で必要とされるコミュニケーション能力を発展させることを目的とした講座です。一つのテーマに沿ってグループでまとめあげるプロジェクトを体験し、全 15 講（入学前 12 講、入学後 3 講/eラーニング）終了後には、2 単位が認定されます。

1 日目

<受付>
【ガイダンス】
【ナンバーバルコミュニケーション】



- ガイダンスの受講・アセスメントシートの記入をします。
- ナンバーバル(言葉によらない)コミュニケーションの重要性について学びます。

2 日目

【図書館の利用と検索】
【コミュニケーションの基本 話す技術】
【コミュニケーションの基本 書く技術】



- コミュニケーションの基本、「話す」と「書く」について、発声や話し方、文章作成の手順などを身につけます。
- 大学図書館では、利用方法や資料の調べ方について学びます。

3 日目

【問題の発見】
【問題の発見 MS-Office 群の活用】
【情報の分析と問題解決①グループワーク】



- 社会人として働く上で必要不可欠なスキルのひとつ、MS-Excel の基本操作を学びます。(困ったときには、SA がサポートします)

4 日目

【情報の分析と問題解決②グループワーク】
【プレゼンテーション・グループワーク】
【発表とまとめ】



- 3 日間で学んだことをグループメンバーと協力して問題解決し、プレゼンテーションを行います。

A 日程：2 月 19 日(火)・20 日(水)・21 日(木)・22 日(金)

B 日程：2 月 20 日(水)・21 日(木)・25 日(月)・26 日(火)

C 日程：3 月 19 日(火)・20 日(水)・22 日(金)・25 日(月)

D 日程：3 月 20 日(水)・22 日(金)・26 日(火)・27 日(水)

グループワーク ～問題発見からプレゼンテーションまで～

総合ビジネス・情報学科 准教授 高嶋 章雄

入学前授業では、4 日目の最後にグループによるプレゼンテーションを実施します。つい数日前に、知り合ったばかりの他校の生徒と一緒に壇上に立ち、濃密に過ごしてきた 4 日間の学習成果を発表する場です。「湘北短大に欲しい施設」や「ごみのポイ捨て」など、高校・大学生活における問題をグループで設定し、アイデア創出・絞り込みを経て、解決策を発表します。問題の分析には Excel を、スライド制作には PowerPoint を使い、本学の PC 環境に慣れつつ、個々人で作ったスライドを合体させてプレゼン資料とします。グループワークの良し悪しで、多角的な視点で問題や解決策をとらえているか、論理的にシナリオが展開されるか、統一感のある資料が制作できるかなど、成果物に差が出ます。



高嶋准教授

実際には、教員が予想する以上の素晴らしいプレゼンをするグループもあれば、もう少し頑張ってもらいたいと感じるグループもあります。しかしながら、発表中にアイコンタクトをとったり、休み時間や別れ際にお互いの連絡先を交換したり、緊張しながら言葉を選びつつ、ときに大声で笑い合う光景を見るたびに、生徒たちの適応力・コミュニケーション力に驚かされます。

スキルや技法を学ぶだけでなく、顔見知りを増やすことで入学後の不安を和らげることができる点においても、重要な役割を担う授業となっています。

平成 30 年度 出張授業のご報告

日時：2018年7月10日(火) 13:15～14:15
 高校：愛川高等学校
 授業：「ピアノに親しむ」
 保育学科講師 赤井裕美



愛川高等学校 (1～3年生 20名対象)
 「ピアノに親しむ」 保育学科講師 赤井 裕美

2018年7月10日(火)、「ピアノに親しむ」というテーマのもと、愛川高等学校で出張授業を行わせていただきました。当日は、音楽を身近なものとして感じてもらうために、音楽室のグランドピアノをお借りし、季節の歌、生活の歌の紹介から始めました。いつもは紙鍵盤をお配りしているのですが、今回は前もって参加者一人一人にキーボードをご用意くださっていたので、実際に音を出しながら、楽譜を読む際のポイントをお伝えすることができました。その後は、よく親しまれている「さんぽ」を、リズム打ちをしながら歌ってもらいました。「リズムだけで」、「歌だけで」、「両方合わせてみましょう！」と最後はフルコーラスを元気に歌っていただきました。「できないと思っていたのにできた!」、「みんなで歌うのは楽しい!」と参加者から嬉しい反応を頂戴しました。

保育士や幼稚園教諭といった保育者になるためにはピアノは不可欠とも言えますが、年々、ピアノを習ったことがなく触れたこともない、という学生が激増しています。本学では少しでも不安をなくして授業に取り組んでほしい、というねらいのもと、入学前に「ピアノ初心者のための特別講座」を開講しています。完璧に仕上げることを求めているのではなく、「音楽に親しんで子どもたちにも広めてあげてほしい、そのためにはピアノを弾いて伴奏もあった方がもっと楽しくなるよね?」という思いで「音楽」の指導にあたっています。今後も工夫をこらし、ニーズに合わせた楽しい授業を心がけていきます。

日時：2018年8月24日(金) 14:00～16:00
 高校：川崎総合科学高等学校
 授業：「音～センサー+出力系システム作成～」
 総合ビジネス・情報学科教授 内海太祐



日時：2018年6月26日(火) 13:25～14:15
 高校：伊勢原高等学校
 授業：「ファッションマップを作ろう」
 生活プロデュース学科教授 太田奈緒



日時：2018年7月12日(木) 14:00～16:00
 高校：茅ヶ崎高等学校
 授業：「言葉あそび」
 保育学科教授 實吉明子



日時：2018年7月17日(火) 14:30～15:20
 高校：平塚商業高等学校
 授業：「マーケティング入門」
 総合ビジネス・情報学科講師 松本竜一



日時：2018年9月10日(月) 13:25～14:15
 高校：高浜高等学校
 授業：「似合う色の見つけ方」
 生活プロデュース学科講師 小出真理子



日時：2018年12月10日(月) 13:30～15:00
 高校：川崎総合科学高等学校
 授業：「ゲームはどうやって作られているのか?」
 総合ビジネス・情報学科准教授 高木亜有子



日時：2018年12月14日(金) 8:50～10:30
 高校：小田原東高等学校
 授業：「生活習慣病とは?」
 自己の生活習慣について考えよう
 生活プロデュース学科教授 小泉綾



日時：2019年3月13日(水) -15日(金)
 高校：有馬高等学校
 授業：「コミュニケーション研修会」
 総合ビジネス・情報学科教授 飯塚順一



日時：2019年3月20日(水) 10:40～12:20
 高校：小田原東高等学校
 授業：「現代社会コミュニケーション」
 ～お互いに理解しあうために～
 総合ビジネス・情報学科教授 飯塚順一



神奈川県教育委員会 見学会開催のご報告

～インクルーシブ教育に関する情報交換～



2018年11月28日(水)、神奈川県教育委員会インクルーシブ教育推進課主催によるインクルーシブ教育に関する情報交換を目的とした見学会を本学で開催いたしました。

本学教務部より入試制度概要の説明の後、インクルーシブ教育に関する質問や意見交換がなされました。その後は、各学科の授業参観を実施。当日は、神奈川県教育委員会インクルーシブ教育推進課(2名)、総合教育センター(1名)、茅ヶ崎高等学校(2名)、厚木西高等学校(3名)、足柄高等学校(2名)のご参加をいただきました。

日時：2019年3月5日(火) 15:00～16:40
会場：湘北短期大学 (7号館3階731教室)

- 「インクルーシブ教育」
神奈川県立厚木西高等学校 総括教諭 高橋智明
- 湘北短期大学のLA科目授業紹介：
『生涯スポーツと健康』
生活プロデュース学科 教授 小泉 綾



高橋先生

神奈川県では平成28年度から始まった県立高校改革において、知的障がいのある生徒が高校教育を受ける機会を拡大するため、インクルーシブ教育実践推進校を3校(足柄高校、厚木西高校、茅ヶ崎高校)指定し、平成29年4月、連携募集により各学校に生徒が入学しました。最初に指定された3校をパイロット校と呼んでいます。

神奈川県教育委員会が発行しているリーフレットを引用しますが、「インクルーシブ教育実践推進校とは、共生社会の実現に向けて、障がいのある生徒もない生徒も共に学び、学校行事や部活動と一緒に取り組むことができる学校です。共生社会とは、すべての人が相互に人格と個性を尊重し、支え合い、生き生きと生活できる社会のことです。」と表記されているように学校という集団生活の場は多くの人と関わり合いを学ぶ場であると思います。

厚木西高校には現在、1年生19名、2年生15名、全体で34名の連携募集によって入学した生徒が一般募集の生徒とともに学習や行事、部活動などに取り組み、生き生きと学校生活を送っています。4月からは新入生を迎え入れ、全学年が揃って厚木西高校は新たにスタートします。

配慮を必要とする生徒を受け入れることが1つのきっかけとなり、生徒と過ごしてきた2年間で築き上げてきた取り組みや先生方が実践されている一つひとつの支援、一人ひとりへの配慮や環境調整の発想力は生徒理解の向上のみならず、教員間のつながりを高めていると実感しています。このことは、障がいのある生徒への支援だけではなく、「学校に通う、すべての生徒が過ごしやすく、学びやすい環境」へと変化し、生徒が主役の学校になって行くという手応えを感じています。

リベラルアーツ科目授業紹介：『生涯スポーツと健康』

生活プロデュース学科 教授 小泉 綾

「生涯スポーツと健康」は、平成17年度まで、「保健体育科目」の「体育実技/理論」(必修)として、独立して開講されていました。当時の授業の主目的は、「身体を鍛える」、「その時間スポーツを楽しむ」ための授業でした。湘北短期大学の教育方針や時代のニーズを踏まえリニューアルをする必要があったため、平成18年度から「生涯スポーツと健康」に科目名称を変更し、リベラルアーツ科目として大幅リニューアルされ、現在に至ります。現在は、必修科目として、総合ビジネス情報学科と生活プロデュース学科の学生対象に開講されています。



小泉教授

現行のシラバスには、「①自発的にスポーツに取り組むための知識や方法を理解する②身体運動を行うことで自分の身体や精神の状態を把握し、自己の健康保持増進に役立てられるようになる③他者と協力しながら一緒にスポーツに取り組むことを通じて、社会性を身につけコミュニケーション能力を高める」の3つの具体的到達目標を掲げています。内容は、前期のIでは、体力テストやテニスなどのスポーツを行い、生活習慣病について扱っています。後期のIIでは、ロコモ度テストやバレーボールなどの球技、救急蘇生法を扱っています(詳細は、本学HPに掲載されているシラバスをご覧ください)。

ただ単に目的に沿って毎時間スポーツを行うだけでなく、体力テスト・ロコモ度テストを実施し、自己の体力の現状を把握し、結果を評価しています。そして、自己の運動習慣を振り返り、将来を考えるきっかけとなるような授業を展開しています。大学生の時期から、体力を維持・向上させることが、将来の健康寿命を伸ばすために重要であるからです。

1991年に大学設置基準が変更され、現在は体育関連の科目が必修で開講されている大学は、7割程度といわれています。湘北短期大学では、今後も社会のニーズや受講生の状況・要望を鑑みつつ、授業で扱う内容のブラッシュアップをし、教育的効果の高いスポーツ・健康の授業を実施していきます。

湘北短期大学リベラルアーツセンター (担当：北野・谷口・岡廣)

〒243-8501 神奈川県厚木市温水 428
TEL:046-247-3131/FAX:046-247-3667
E-mail:LAC@shohoku.ac.jp
URL: <http://scopp.shohoku.ac.jp/>



湘北
ナビットくん

高大連携通信 vol.17

発行日:2019年3月28日(木)

発行元:湘北短期大学
リベラルアーツセンター